



復刊第117号
題字 吉岡 弥生

新春を迎えて

会長 山崎 倫子

皆様にはご健勝にて新春をお迎えることとお慶び申し上げます。ふり返って、この一年間、あまりにも早く過ぎてしまったことに感無量です。さて、先般の定時総会においてご審議ご承認いただきました定款改正は、厚生省より十月十一日付をもって一部変更を認可する旨の通知が届きました。(1)名誉会員は準会員ではなく正会員であること、総会の決議によって名誉会員の称号を与えることができること、(2)理事は評議員を兼ねることができないことを明確にしたことです。昨年未発行された会員名簿には、新定款が掲載されますのでご確認下さい。

去る十一月十九日、第十一回学術研修会が東京女子医大、弥生記念講堂において開かれました。高齢化社会と漢方と題して、北里研究所附属東洋医学研究所長・大塚恭男先生のご講演を伺いました。非常にブラクティカルなお話で、特に高齢者に適した漢方薬を症候別、効能別に示され、会員からの質問「証」（虚実、陰陽）についてはあまりこだわることではないとのお答えでした。近年の疾病構造の変化、多病を有する高齢者、難病の増加などもあって、漢方療法がクローズアップされている折から、多数のご出席を得て大変盛会でした。

次に、素晴らしい禁煙ポスターができて上がり、さっそく各支部長宛に送らせていただきました。本来ならば会員のお一人おひとりにお送りすべきなのですが、非常に美しい芸術的作品なので、折りたんで送ることができず、送付方法、費用の問題もあって一括支部長様宛に送らせていただいた次第です。お手数をおかけして誠に申し訳ございませんが、葉やさんを通して配布していただきますようお願い申し上げます。このポスターは世界的に著名な版画家、井上公三氏の作品で、特に禁煙活動を女医会が行なうことの意義を評価して下さり、好意的に使わせていただいた次第です。また、厚生省、心臓財団のご後援とご協力を頂きましたことを感謝し、ご報告申し上げます。

去年は、埼玉、群馬、宮城、京都支部から本部へ出席のご依頼があり、喜んで会長または代理が出席させて頂いていただきました。埼玉、群馬はすでに活発な活動をしておられ、新入会員も増えており、心強い限りです。宮城県支部も大いに活躍が期待されます。昭和六十五年の定時総会を仙台で開催することもお引き受け下さいました。京都支部は頑張って地域の女医全員にご案内をお出し下さったせいか、非会員の方々も多くご出席下さり、大変嬉しく思いました。よくいわれる、日本女医会に入会しても何のメリットもないという問題についても、男女差別の厳しい時代についても、男女差別の厳しい時代に女医の地位向上と社会に貢献をし

もくじ

- 新春を迎えて..... 山崎 倫子 (1)
- 第11回学術講演研修会
- 特別講演「高齢化社会と漢方」..... 大塚 恭男 (2)
- 第21回国際女医会会議への若い女医の参加援助..... (6)
- MWIA 西太平洋地域会議に出席して..... 山崎 倫子 (7)
- 西太平洋地域会議に参加して..... 上崎 道子 (8)
- 会員の消息..... (8)
- 姉妹都市ウーロンゴンとオーストラリアの旅..... 稲生 裏 (8)
- 第34回日本女医会定時総会のご案内..... (9)
- 理事会議事録..... (10)
- 常任理事会議事録..... (11)
- 会員動静..... (12)
- 編集後記..... (12)

てこられた多くの先輩にかかわる女医会の歴史、戦後再出発、国際女医会に再加盟後の内外における活動への参加、全国および海外の女医との交流、有利な女医年金の紹介、女医の地位向上、学術研究費助成、連帯によってもっと社会に貢献できるのではないかなど……等、直接お話しする機会を得たことを喜んでいる次第です。特に紅葉の美しい今熊野観音堂でのお集りに一時の安らぎを感じ、医聖堂へお参りすることもでき、楽しい一日でした。

友達を多く持つことは社会が広がることにも通じます。会員の皆様、ぜひ女医会への加入をお奨め下さい。そして会報をぜひお読み下さい。また会報は一方通行ではなく、地方からの行事や声をお聞かせいただき、他にお知らせする役割も持っています。皆様からのお便りをお待ちいたします。今年も会員の増強と絆づくり、連帯をめざしてまいります。年頭に当たり会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

第11回学術講演研修会

●昭和63年11月19日(土)▼於/東京女子医科大学・臨床講堂

特別講演 高齢化社会と漢方

北里研究所附属東洋医学総合研究所 所長 大塚 恭男

昭和六十三年十一月十九日(土) 午後三時三十分より、東京女子医科大学、臨床講堂において、第十一回学術講演研修会が開催され、出席者は、七十六名であった。大塚恭男先生のご了承を得てご講演の要旨を掲載する。

ご紹介ありがとうございます。また、日本女医学会のほうにお招きいただき、大変光栄でございます。一時間ぐらいでございますので、なるべく役に立つようなお話をしたいと思います。最初は、最初の十分ぐらい、ちょっと教養番組みたいなことを申しまして、それから実質の基礎知識があったお話をしてみたいと思います。

(スライド映写)

これは日本に残っている最初の医学書であります「医心方」というものをお書きになった丹波康頼。いま



大塚恭男先生

から千四百年前でございますが、九八四年に「医心方」という立派な本をお書きになった方ですが、この中に日本の漢方の伝統がビシヤッと入っているわけです。中国医学にヒントを得て書かれた本ですけれども、やっぱり日本の特色が出ています。日本の漢方の父と言われます。どういふところが特徴かといいますが、日本の漢方はあまり理屈を言わないで、現実的な性格をもっています。哲学的なことは好きでない、実際的なことに重点を置くわけですが、この「医心方」にも、この辺が直截に出ているわけでございます。四年前に京都で千年祭が行なわれました。

田代三喜です。十五、十六世紀の人ですが、新時代の漢方の育ての親なんです。これは、茨城県の古河に永く住んでいまして、古河の三喜と呼ばれているんですが、十二年間明国に留学しまして、当時の新しい医学を日本に伝えました。

曲直瀬道三です。田代三喜の弟子で、戦国時代の十六世紀に、九十歳近い寿命を全うした人で、当時の戦国時代の有名な武将とか、天皇とか、足利將軍などの主治医をやっている人ですが、大変著書の多い、大変大きな業績を残した人です。日本で初めて人体解剖をやった山脇東洋で、京都の人ですけれども、日本の医学の新しい部門の創立者といえます。古方派の大家です。

吉益東洞で、十八世紀の非常に革新派の大立者というところでございしますが、日本的な漢方でやっぱり忘れられない人物。特に日本の漢方では、腹診といまして、腹部の触診を重視するのですが、これを体系化した人です。

これが、吉益東洞の弟子の書いた「腹診の図」でございますが、胸脇苦満などいまでも私どもが使う用語が出ています。漢方が一番停滞したのは、十九世紀の後半から二十世紀の前半だと思います。

これは朝比奈泰彦先生。薬学者で、最初の文化勲章をお取りになった方です。私も、先生の晩年に一度だけお目にかかったことがございます。大正十五年に、第七回日本医学会総会で、和漢生薬の研究という特別講演を行ないました。その当時東大の教授であられたのですが、漢方薬の中に何という成分が入っているというだけの話でなくて、漢方の生薬というものの治療的意義、つまり、ピュアな化学物質を使うのと、生薬というクルドなものを使うのとは、ど

ういふところで違っただ、クルドなものを使うのは、こういう利点があるということをおっしゃったのでございます。

先生の表現によると、陰影のある効果、直截ではないんだけど、陰影のある、シェードのある効果というふうに言われておりますが、まことに言い得て妙だと思っております。化学構造が一定しているものはクリアカットな効果を上げると言えると思いますが、漢方薬になると、いろいろな成分がそれなりの秩序をもって集合して個々の有機体を形成している。それをさして陰影のある効果だということをおっしゃったのでございます。

これは板倉武先生、くしくも今年には生誕百年でございます。東大で初めて治療学という講座を設けられたんですが、非常な秀才で若くしてドイツ、フランスに留学を命ぜられ、教授を約束されながら、当時の内科学に批判的であつたため、とうとう教授になれなかつた。板倉先生の治療学という講座なんです。この講義に随分大勢の方が影響を受けたといわれております。大島良雄先生なども、この先生の影響で漢方に眼を向けられたとてあります。

これは、中国の昔の薬物の本ですが、「神農本草経」という西暦二世紀の本ですけれども、上・中・下という分類、非常に面白い分類なんです。上・中・下というの、朝鮮人参とか甘草とかという、どっちかという非常に多方面に薬理効果があつて、しかもあまり毒性がないというものが、きょうの話題の、高齢者の治療なんかにも向くようなものがある。この上薬でございます。

下薬というのは、薬理活性は強いけれども、同時に毒性が強いもので、たとえば大黄とか、あるいは附子、草烏頭、そんなものが入っているわけ、中薬というのは、そのちょうど中間で、エフェドリンの原料の麻黄とか、あるいは芍薬とかという類のもの、植物とか動物とかいう

唯物的なそれと違って、薬の人体に与える影響というものを指標にして分類しているのが、中国の特徴だろと思うわけです。二、三植物をちょっとお目にかけます。そこで人参です。本草はだいたいこんな形で、まず絵をかくて、次に大事な薬効を書いて、あと、細かい解説を書いておきます。これは甘草、これも上薬でございます。これは、中薬の芍薬です。芍薬は、東洋にも西洋にも古くからございまして、西洋でも大事な生薬です。これは麻黄です。麻黄は、日本ではできません、これは中国でも、北の地方のような、乾燥地帯でみられるもので、中国の新疆省とか、あるいは蒙古、アフガニスタン、パキスタンなどにみられます。

これは大黄で、非常に大事な生薬です。最近特に脚光を浴びつつあるものであります。これは附子、トリカブトで毒性は強いが、薬として大変珍重されてきました。これは、西洋の一世紀の『ディオスコリデス本草』の薬の分類ですが、対照的なものは、やっぱりこういう何となく日本は中国とは違つた分類法でございまして、青葉と樹脂性の植物とか、食用、薬草、こんなふうな感じでございます。

これがもう本論になると思いますが、漢方が一番衰えた時期には、どんな医学上の大きな仕事があつたか。

これは、みんなやっぱり感染症に対する大きな貢献だと思つてますが、まづ十八世紀末にジェンナーによる牛痘法の発見があつて、それから五十年たつて日本に伝えられた。それから明治十年代に医師の免許試験制度が定められ、西洋医学をもつて、日本の医学の根本とする決定をされた。一八九〇年に北里・ペーリングによる破傷風、デifterリーの血清療法。発見、一九一〇年のエールリッヒ・秦によるサルバルサンの発見、ついでフレミングのペニシリン等々と感染症に対する強力な武器が次々に開発されました。

先ほどもちょっとお話がありました。漢方がいまま出てきたのは、疾病動態が変わつてきたということなんでしょう。昭和初年頃の死因統計一位が下痢、腸炎、二位が肺結核、そして三位は肺炎、気管支炎であります。ところが最近では、悪性腫瘍、心疾患、脳血管障害が上位を占め、しかもその背景には、本日は題になるような高齢化社会を控えています。多器官障害、一つだけじゃなく、いろいろなところに病氣を持つていらつしやるという患者さんが多くなつて、単にどこそこだけが悪い、あるいは肺結核、肺だけが悪い、あるいは下痢、大腸炎だけと、そういうような感じではなくて、あつちこつちの問題を抱えていらつしやる患者さんが多くなつたという背景があつて、漢方が何か貢献する余地があるんじゃないかということ、最近ク

ローズアップされてきたというふうな感じが思つておられます。

ここからが本論になります。いろいろなくつかのテーマに分けてお話ししたいと思います。大まかに分けて、全身状態の改善、つまり、長い病気で苦しんでいらつしやる方、どこかに特別に悪いところがあつても、あつちこつちが悪いんだということ、何となく元氣にしてやろう。たとえば、癌の手術をしたときに、非常に全身状態が衰弱したときに、なにか漢方の出番がないかというふうなことであります。最近、外科のほうの先生方も随分漢方薬をお使いになつていらっしゃるわけですが、そのときに必ず話題になるのが、この二つ、補中益氣湯と十全大補湯でございます。そのほかにも、類似のものがいくつか挙げられるわけでございます。いずれも全身状態の回復、この補中というの、名前が全くそのとおりで、中というの、身体的なものをさします。身体的なものを補つてやります。一方、氣の方は精神的なものをさします。氣力を増してやる。心身ともに疲弊している状態を助けてやろうというの、補中益氣湯でございます。

朝鮮人参と黄耆とが主薬として入つていて、この類の処方の特徴でございます。そのほかの配分生薬が微妙に変わつてくる。たとえば全

身状態が悪いといつても、特に慢性関節リウマチのように、身体痛があるという例だと、大防風湯というふうなものが使われます。また呼吸器に何かトラブルがあるもの。全身状態が悪いんだけど、特に呼吸器のほうに、何かいろいろな慢性的問題があつたりするときには、補中益氣湯が好んで使われます。また慢性肝炎に対しては小柴胡湯が非常に有名でございますが、補中益氣湯も一種の柴胡剤でございます。全身衰弱の著しいような例ではこの処方も好んで使用されます。十全大補湯について申しますと、体のどこかに慢性的な化膿巣を持つているもの。たとえば昔だと、カリエスに非常によく使つたんです。戦前結核に対して何にも薬がなかったときは、この十全大補湯が、カリエスに対してかなり威力を発揮したのでございます。カリエスとか骨髄炎、あるいは痔瘻や肛門周囲膿瘍のようなものにもよく使いますし、場合によっては、慢性的副鼻腔炎のような例にも有効であります。

私が漢方始めて最初に驚かされた治療がこの十全大補湯でございます。三つか四つの子のお母さんと一緒にいらつしやうて、それが、両方のほつぺたにべつたりエロージョンができています。そして、うなじのところ、同じものがケロイドみたいになっていて、女の子だから、非常に、お母さん心配なさいま

うなじのところ、同じものがケロイドみたいになっていて、女の子だから、非常に、お母さん心配なさいま

うなじのところ、同じものがケロイドみたいになっていて、女の子だから、非常に、お母さん心配なさいま

主な漢方薬の一覧

補中益気湯	十全大補湯	人参養栄湯
清心益気湯	清心蓮子飲	大防風湯
羊夏白朮天麻湯	婦脾湯	当帰湯
▼中枢神経系		
黄連解毒湯	七物降下湯	釣藤散
小承気湯	大柴胡湯	柴胡加竜骨牡蛎湯
半夏厚朴湯	女神散	
▼消化器		
六君子湯	四君子湯	補中益気湯
小建中湯	大建中湯	小柴胡湯
柴胡桂枝湯	大柴胡湯	半夏瀉心湯
人参湯	桂枝加芍薬湯	真武湯
胃風湯	麻子仁丸	潤腸湯
▼循環器		
黄連解毒湯	七物降下湯	釣藤散
大柴胡湯	柴胡加竜骨牡蛎湯	半夏厚朴湯
▼呼吸器		
苓甘姜味辛夏仁湯	柴朴湯	麦門冬湯

▼全身状態の改善

皮肉科のほうの病名が何と何とわからなかったんで、これを使ったら、非常によくなった。一週間ぐらいでびっくりするほどよくなったんで、結局、一月もたないうちにう薬をやめてもいいだろうということになりました。廃棄したことがあったんですが、そのことが非常に印象的でございまして、それ以来、先ほどの化膿果があったりする場合や皮膚とか粘膜にびらん・潰瘍がある場合によく使っております。

▼中枢神経系

したがって、ある場合には、拡大解釈しますと、潰瘍性大腸炎などにも使う可能性があるんじゃないかと思っておりますし、使っているわけですが、この場合は、現代医学的な治療法も併用しますので、漢方薬がどの程度効くかちよつとよくわかりませんけれども、よさそうだという感触は得ております。

▼消化器

次に清暑益気湯ですが、読んで字の通りに、元来は暑さ負けの薬でございまして、昔、私のおやじも言っていたんですが、明治、大正の頃までは概して医者への支払いは益暮れの二回だけだったというんですね。お盆のときには、患者さんが払うと、領収書代りに暑さ負けの薬と言つて、これを出したものです。これは、江戸時代の川柳なんかにございまして、暮れに来たときにはお屠蘇を出す。それで、患者の中には飲み逃げする者がいて、お屠蘇を結局医者からもらえなかったから薬屋で買ったとか

▼循環器

そうしたら、何日かして来て、あの薬は血糖を下げるかというんです。私はそんなことを聞いたことないし、本にも書いてない。そうしたらその先生が言うには、実は言わなかったが糖尿病の持病があつて十七単位のインシュリンを使っていると言つたんです。ところが清心蓮子飲を飲んだところ低血糖ショック様の症状をおこしたということです。そしてインシ

▼呼吸器

に正常にしてやるということ、古典を見ますと、不安とか不眠とかという精神症状から、見当識障害、錯乱などのもう少しはげしい症状にも使われております。この主成分は、漢方薬の大黄でございまして、大黄というのは、実に面白い薬でございまして、最近非常にいろいろなことがわかつてまいりました。昔は単なる下剤と考えられていました、私どもの習った薬理の教科書には、たった一行「植物性下剤の一種」と書かれてありましたが、最近非常に多くの薬理学的な仕事が出されております。

半夏厚朴湯	香蘇散	清肺湯
竹筴温胆湯	喘四君子湯	
▼運動器		
八味地黄丸	桂枝加朮附湯	大防風湯
防己黃耆湯	大黃附子湯	芍甘黃辛附湯
桂枝茯苓丸		
▼泌尿生殖器		
八味地黄丸	当帰芍薬散	五苓散
小柴胡湯	柴苓湯	清心蓮子飲
大建中湯	大黃牡丹皮湯	
▼皮膚科領域		
黄連解毒湯	温清飲	当帰飲子
十味敗毒湯	防風通聖散	

▼泌尿生殖器

次に小承気湯について申しあげます。この承気湯というのは、循環させるめぐらすなどの意味で、承気とは気が滞っているのをうまくスムーズにめぐらしてやるということとございまして、つまり、気がめぐっているときとか、気が重たいというよう

▼皮膚科領域

次に小承気湯について申しあげます。この承気湯というのは、循環させるめぐらすなどの意味で、承気とは気が滞っているのをうまくスムーズにめぐらしてやるということとございまして、つまり、気がめぐっているときとか、気が重たいというよう

い処方で、非常に使いやすいすぐれた処方だと思つております。

次に七物降下湯ですがこれは私の父が作った処方でございます。父は五十二歳の時に眼底出血をやりまして、そのときに、いろいろ工夫してつくった薬でございます。七種類の薬が入っているんですが、それを、私の父の尊敬していた馬場辰二先生にお話ししたら、馬場先生がこのお名前をつけてくださったのです。馬場先生は当時の吉田茂首相の主治医をされていた偉い先生ですが、七物降下湯という名前をつけてくださった、それがいまでは定着して、この名前がエキス剤も出ております。高血圧に使われております。

して連れて来られたんですが、私も皮膚科のほうの病名が何と何とわからなかったんで、これを使ったら、非常によくなった。一週間ぐらいでびっくりするほどよくなったんで、結局、一月もたないうちにう薬をやめてもいいだろうということになりました。廃棄したことがあったんですが、そのことが非常に印象的でございまして、それ以来、先ほどの化膿果があったりする場合や皮膚とか粘膜にびらん・潰瘍がある場合によく使っております。

したがって、ある場合には、拡大解釈しますと、潰瘍性大腸炎などにも使う可能性があるんじゃないかと思っておりますし、使っているわけですが、この場合は、現代医学的な治療法も併用しますので、漢方薬がどの程度効くかちよつとよくわかりませんけれども、よさそうだという感触は得ております。

次に清暑益気湯ですが、読んで字の通りに、元来は暑さ負けの薬でございまして、昔、私のおやじも言っていたんですが、明治、大正の頃までは概して医者への支払いは益暮れの二回だけだったというんですね。お盆のときには、患者さんが払うと、領収書代りに暑さ負けの薬と言つて、これを出したものです。これは、江戸時代の川柳なんかにございまして、暮れに来たときにはお屠蘇を出す。それで、患者の中には飲み逃げする者がいて、お屠蘇を結局医者からもらえなかったから薬屋で買ったとか

そうしたら、何日かして来て、あの薬は血糖を下げるかというんです。私はそんなことを聞いたことないし、本にも書いてない。そうしたらその先生が言うには、実は言わなかったが糖尿病の持病があつて十七単位のインシュリンを使っていると言つたんです。ところが清心蓮子飲を飲んだところ低血糖ショック様の症状をおこしたということです。そしてインシ

に正常にしてやるということ、古典を見ますと、不安とか不眠とかという精神症状から、見当識障害、錯乱などのもう少しはげしい症状にも使われております。この主成分は、漢方薬の大黄でございまして、大黄というのは、実に面白い薬でございまして、最近非常にいろいろなことがわかつてまいりました。昔は単なる下剤と考えられていました、私どもの習った薬理の教科書には、たった一行「植物性下剤の一種」と書かれてありましたが、最近非常に多くの薬理学的な仕事が出されております。

その一つには、中枢作用があつて、これは、臨床のレベルでは、古典時代から記されております。また最近では、慢性腎炎なんかに向かうような活性、尿素窒素の代謝をよくするというようなことや、さまざまな知見が出されております。

次に半夏厚朴湯ですが、古典によると梅干しの種がのどにひっかかったようなものを治すとあります。いわゆるヒステリー球に当たるものだと思いますが、昔からそういう中枢的なものに対して使つておりまして、現在でも、いろいろな不安とか不眠とかを伴うような、そういう症状です。それから女神散、これは女神散と書いてありますが、如神散というふうにも書いたのがあります。同じものですが、神のごとく効くという意味だと思つております。同じ物のことですが、多くは女性の精神神経症状に使つてますが、男性にも使うことがありま

いう川柳が残っております。暑さ負けというの、いわば不定愁訴症候群のような、何となくだるいというもので、したがって慢性肝炎なんかにも、よく使われるわけです。

次に清心蓮子飲ですが、主として尿路の感染症に使われます。つまり、慢性の膀胱炎、尿道炎などで抗生物質を使うとすぐ治りますが、やめるとすぐまた起こつてくるというような例でございまして、尿路の障害、男性の場合は前立腺肥大症のような尿がスムーズに出てこないような場合にも使われます。尿路の神経症なども含めて使われております。

最近、私は非常に面白い経験をしたんですけれども、これは私の大学の同級生でございまして、某大学の教授をしていらつしやる方なんですが、その方が、小便がスムーズに出ないといつて私のところへ来られました。自分で導尿をやつていると言つたんです。まだ五十代なものですから、ちよつと前立腺には早いなと思つてやつたんですが、この薬を使つてみました。

そうしたら、何日かして来て、あの薬は血糖を下げるかというんです。私はそんなことを聞いたことないし、本にも書いてない。そうしたらその先生が言うには、実は言わなかったが糖尿病の持病があつて十七単位のインシュリンを使っていると言つたんです。ところが清心蓮子飲を飲んだところ低血糖ショック様の症状をおこしたということです。そしてインシ

に正常にしてやるということ、古典を見ますと、不安とか不眠とかという精神症状から、見当識障害、錯乱などのもう少しはげしい症状にも使われております。この主成分は、漢方薬の大黄でございまして、大黄というのは、実に面白い薬でございまして、最近非常にいろいろなことがわかつてまいりました。昔は単なる下剤と考えられていました、私どもの習った薬理の教科書には、たった一行「植物性下剤の一種」と書かれてありましたが、最近非常に多くの薬理学的な仕事が出されております。

その一つには、中枢作用があつて、これは、臨床のレベルでは、古典時代から記されております。また最近では、慢性腎炎なんかに向かうような活性、尿素窒素の代謝をよくするというようなことや、さまざまな知見が出されております。

次に半夏厚朴湯ですが、古典によると梅干しの種がのどにひっかかったようなものを治すとあります。いわゆるヒステリー球に当たるものだと思いますが、昔からそういう中枢的なものに対して使つておりまして、現在でも、いろいろな不安とか不眠とかを伴うような、そういう症状です。それから女神散、これは女神散と書いてありますが、如神散というふうにも書いたのがあります。同じものですが、神のごとく効くという意味だと思つております。同じ物のことですが、多くは女性の精神神経症状に使つてますが、男性にも使うことがありま

次に消化器関係の処方をお示し申し上げます。まず四君子湯、六君子湯について申しあげます。君子という字がつくだけにおだやかな薬効をもつております。かなり前に、五十代の作家の方で、本当に骨と皮と

いうような方を診たことがあるんですが、男性です。若い頃に肺結核を何年かやつて、胸廓成形術を受けておられる。結核を卒業すると今度はよく吐血、下血を起こす。つまり胃潰瘍を繰り返すという方を診たんですが、最初に診たときは、ある病院に入院されていまして、その主治医と親しいところから、往診しまして、そのときに出したのが四君子湯です。四君子湯を飲まれてから急速によく

なられた。それからあとは、胃潰瘍をおこすと私のところへ入院されていまして、ある夏に、避暑先の長野県で発病され、往診を頼まれたんですが、緊急を要するというところで、近所の病院に入つたらすぐに手術となり、手術そのものは成功したというのですが、その翌日に脳出血をおこして死亡されました。

次に小建中湯と大建中湯です。中というの、消化器をさすと考えてよいと思つてます。建中とは消化機能を立て直すということです。次に半夏瀉心湯です。この瀉心と申しますのは、心の意味は一つは心(こころ)でありまして、心のほうの何となく憂鬱だとか不安だとかという精神症状と、同時に心窩部、つまりみぞお

ちのあたりが何となく重たいという症状ですね。胃が精神的なことで、非常に影響を受けることは先生方ご存知のとおりなんですが、消化性潰瘍のようなものによく使われるわけ

これも、私一つ忘れられない経験があるんですが、ある年の暮れ、眠れないとかいろいろなことでおいでになって、これを出したんですが、非常によく思ったんですが、二週間の中のうちに三つあったら、すなわち尋常性疣贅の大きいのが取れてしましました。私もびっくりしたんですけれども、あとで心療内科の池見西次郎先生にお話ししたら、いぼというのは心因性のものがかなり関与しているからそういうこともあり得るというふうな解説をいただきました。

次に麻子仁丸、潤腸湯など、通常下剤として使われるものですが、内容を見てみますと、確かに下剤には違いないんですが、精神的な要素が加わっているのが特長です。麻子仁丸にしても潤腸湯にしても、いわゆる漢方的なトランキライザーみたいな形で私はよく使つておりますけれども、いろいろな精神症状を持つていて、しかも便秘があるという例は多いのですが、そういうふうな例に使用します。単なる便秘というよりも、何か精神が鬱屈したような状態に麻子仁丸はいいと思つてます。

これは、呼吸器の系統の薬、それも特に高齢者向けの薬を列記したわけでございます。呼吸器の病気で、

漢方です考えられるのは、麻黄の... 入った、さきに申しました、エフェ...

湯のせいかと聞いたので、それしか... 考えられないと言ったんですが、実...

ほうにいろいろな慢性関節リウマチ... すとか、いろんなことが起こってま...

なぜかといいますが、麻黄は高齢... 者に向かないケースが非常に多い。

小青年と性格が似たもので、小青... 竜湯と表裏の関係と言ってもいいん...

津村さんでも最近エキスができた... んですが、大防風湯、これは、人參...

例が多いと思います。しかし、血圧... が高いとか、あるいは心臓に何か問...

清肺湯という処方もあります。肺... を清めるといって、何か粘っこい...

防己黄耆湯は、同じ運動器と言っ... ても特に変形性膝関節症によく使わ...

知っている人で、素人ですが漢方... 詳しい人で、自分が風邪をひいて葛...

非常に骨が折れるようなもの、た... えば気管支拡張症などにも使えるん...

私の大学での恩師の奥さんがおい... になりました、これを出したわけで...

の生薬はちよつと免疫絡みのややこ... しい疾患を対象とする処方、たとえ...

皮膚科の領域も、最近非常に注目... されています。皮膚科領域で漢方...

したが、これで私の話を終わらせて... いただきます。ご静聴どうもありが...

さつた薬でございまして、泌尿器科... 領域で有用な処方だと私は思ってお...

しかも副作用的なものがほとんどな... いすぐれた処方ですが、皮膚科領域...

【大塚恭男先生・略歴】
昭和5年 高知県に生れる。
30年 東京大学医学部卒業。
31年 インターン終了後、東京...

お話ししたとおりです。
心連子飲については先ほどちよつと...

舌足らずなお話になってしまいま... ます。

62年 日本東洋医学会会長。
57年 同所長。
61年 同所長。
51年 北里研究所附属東洋医学...

MWIA西太平洋地域会議に出席して

会長 山崎 倫子

去る十一月二十五、六の二日間、... 西太平洋地域会議がマニラで開催さ...

際役員、ゲストスピーカー、各国役... 員、フィリピン国旗、MWIA旗、...

問題、特に第三世界の国々では、国... の経済活動への女性の参加、公正に...

健康なくして開発がないという... ことである。民族の財産は、健全な...

SCAP(アジア、太平洋地域経済... 社会理事会)主催で行なわれた、経...

第21回国際女医会会議への 若い女医の参加援助

会期 一九八九年九月三日(日)〜八日(金)
開催地 韓国ソウル市

国際女医会会議でヤング・フォーラムが持たれます。若い... 女医さんの他に女子医学生の参加も歓迎いたします。

*希望者は国際連絡書記へお申し出下さい
(〒173 東京都板橋区加賀2-11-1
TEL 〇三九六四)二二一 内線(二四四五)
帝京大学医学部薬理学教室 藤井 倫子

*会員の皆様も若い会員、身近な学生さんにおすすめ下さい。

行ったと思つたらまた行きたくなっ... ちゃやう。大変怒られて、平身低頭し...

謝されました。
泌尿生殖器疾患の薬として有名で... あり、また重要なのは八味地黄丸と...

いたものの目のあたりに見るイメルダ夫人の靴三千足、ドレス六千着、逃避にあたって持ち出したといわれるひっくりかえった宝石箱数十個などなど。贅沢極まりない寝室、図書室、化粧室、一方まるで病室のようなマルコス氏執務室に寝室、宮殿から一歩足をふみ出して歩けば、寒むざむとした街のたたずまいと貧しさが！ 第二次世界戦争において日本軍の残した爪あとも多い。あれも、これもと、手のつけられないまま残された建物など、気がめいる。最後に、フィリピン女医学会の活動

姉妹都市ウーロンゴンとオーストラリアの旅

神奈川支部 稲生 襄

川崎市の四番目の姉妹都市オーストラリアのウーロンゴン市へ、六十二年十月十二日から二十一日まで、応募した二十五名で行って来た。六十二年五月に姉妹都市となったばかりのウーロンゴン市(海の音の意)はシドニーの南八十キロにあり、鉄工業の盛んな街で、近年は川崎市同様、ハイテク産業の誘致や市の再開発に力を入れているすばらしい風光明媚な所であった。海水浴場やリクリエーション施設もたくさんある、これからの魅力溢



ウーロンゴン市庁舎前(左筆者)

れる街で、ガイドブックにはほとんどまだ載っていない。人口十八万で、シドニーからは高速道路と鉄道があり、両者一時間半で着く。海に面した眺望の良いホテルに着き(三泊)、第一日目の午後は老人ホームを訪問した。イラワラ・リタイアメント・トラスト(イラワラ養老施設)は、一九六九年設立、政治、宗教に無関係の利益を目的としない会社制の法人団体で、二十カ所の老人施設を所有。政府の補助もあると。病気の時はかかりつけの医師が診療してくれると。

国民の健康作りに奉仕している。自分の認識不足を反省した次第である。同行の上崎道子先生はフィリピン女医学会の、地域巡回診療のためにポータル心電計を寄付された。日本人のフィリピン女性への蔑視、人種差別について厳しい詰問を受けるといふ辛いこともあったが、日本人全般からみて人権意識が乏しいことは事実で、何とも悲しい。フィリピン女医学会の一人ひとりが見る、あたたかく、親切であったことを最後に簡単な報告を終わる。

■西太平洋地域会議に参加して

豊島支部 上崎 道子

たった四名という日本女医学会からの参加者の一員として有意義な二日間をすごし得ました事につきまして、今まで準備して下さいました山崎会長、藤井国際連絡書記に心から感謝いたします。

韓国からの十六名参加、台湾の五名参加、あとはオーストラリアから三名とニュージーランドからの一名の他は大半がフィリピン女医学会の方で国際女医学会というよりフィリピン女医学会の催しにゲストとして参加したような気分でした。分科会に出

■会員の消息

*花田カヅ(島根支部)
東京女子医専・昭和八年卒
昭和六十三年十一月三日、藍綬褒章を授賞された。先生は、昭和三十六年から少年補導委員になられ、このたび、その功勞に対する表彰となった。

ニール湾クルーズをする。
次の訪問地アリスベンへは飛行機にて北方約一時間十五分。気温三十五度以上、海水浴をしている。動物園でコアラを抱き、紫色の花のジャカラを賞でた後、折から二百年祭のイベントとしての南半球はじめてのエキスポを見学したり、ゴールドコーストにあるホテルから、モノレールに乗ってシーワールドを見学したりして、好天つづきの旅を楽しんだ。七十七歳の人もいたのに、一人の病人も出ず、皆元気だったのは何よりであった。

第34回日本女医学会定時総会のご案内

新しい年を迎え、諸先生方にはお変わりもなく、御活躍のこととお慶び申し上げます。先にご案内申し上げました、第34回日本女医学会定時総会を千葉において左記の日程のように開催致します。なにとぞ、皆様お誘い合わせの上、奮ってご参加下さいませ。千葉支部会員一同、心よりお待ちしております。

I 期 日 一九八九年5月20日(土)〜21日(日)

II 会場 ホテル・ニュートツカモト

千葉市千葉港7-1
TEL 〇四七二一四三一一一一

III 日程

- 5月20日(土)
 - 評議員会 午前11時〜12時(桐の間)
 - 総会 午後1時〜3時(芙蓉の間)
 - 講演 午後3時30分〜4時30分(芙蓉の間)
 - 演題「消化管の早期癌をさがして30年」
 - 順天堂大学名誉教授 白壁彦夫先生
 - 記念撮影 講演終了後
 - 懇親会 午後5時30分〜7時30分(鳳凰の間)
 - アトラクション(ソプラノ独唱、藤原歌劇団・プリマドンナ 本宮寛子氏)

■5月21日(日)

〔Aコース〕成田山方面(全行程大型バス)

- *成田山開基一〇五〇年
- *坊入では特産の珍しい大きなゴボウの煮物が供せられます。

●行程

- ホテル・ニュートツカモト/午前8時発
- ↓佐倉国立民族博物館(車窓見学)
- ↓成田山新勝寺/午前10時着、大護摩
- ↓午前11時、坊入(昼食)午後1時発
- ↓東京デイズニールランド/午後3時着(昼のバレード)

〔Bコース〕房総方面(列車&バス)

- *行川アイランド・フラミンゴショー
- *鴨川シーワールド・イルカショー
- *動物好きの方はお楽しみいただけると思います。

●行程

- ホテル・ニュートツカモト/午前8時発
- ↓千葉駅(わかしお3号)/午前8時34分発↓安房小湊駅/午前10時5分着
- ↓(バス)↓行川アイランド↓(バス)
- ↓鴨川シーワールド↓(バス)↓小湊
- 広瀬屋(昼食)↓安房小湊駅(わかしお16号)/午後2時41分発↓千葉駅↓(バス)↓東京デイズニールランド/午後5時30分着(エレクトロカルバレード)

〔お別れパーティー〕午後6時30分〜8時30分
『クラブ33』

IV 宿泊 5月19日(金)

- ホテル・ニュートツカモト(千葉市)
- 5月20日(土)
- ホテル・ニュートツカモト(千葉市)
- 5月21日(日)
- シエラトン・グランデ・トウキョウベイ
- イホテル(浦安市)

V 会場への交通のご案内

- ・JR千葉駅、または京成新千葉駅よりタクシー約5分
- ・JR京葉線千葉みなと駅前より徒歩5分

VI 申し込み

申し込みは本誌同封の葉書にて2月末日必着
お願い致します。

平成元年一月
日本女医学会千葉支部 総会準備世話人会

理事会議事録

日時 昭和63年9月24日
場所 日本女医学会 会議室
出席者(敬称略)
山崎、大原、佐藤、石原、久保田、
佐野、白橋、二村、野沢、橋本、
藤井、三好、青井、明石、荒木、
石川、石津、稲生、尾中、小出、
柴田、白濱、関口、中濱、南雲、
野呂、平瀬、福永、森田、八木、
添田、西山
欠席者(敬称略)
小俣、野本、橋本、丸山、小暮、
山口

發送(九一三名)

8月8日 厚生省へ定款一部変更の認可申請書提出
(定款の変更案、変更理由書、新旧条文対照表、総会議事録、評議員会議事録、現行定款)
8月26日 日本女医学会誌一五号發送
8月31日 国際婦人年全体会へ野沢常任理事出席
9月18日 宮城支部へ総会開催打ち合わせのため山崎会長出席

7月・8月分別紙どおり報告

各部報告
(渉外部) 野沢常任理事
8月31日 国際婦人年全体会に出席
2000年に向けての民間行動計画、女性と人権集会、税制改革と婦人問題等について話し合う
(広報部) 久保田常任理事
次号発行の誌原稿が全部集まる
9月28日 広報部会開催
(事業部) 橋川常任理事
禁煙ポスター完成
日本女医学会年加入者の増加対策を検討
9月23日 事業部会開催
(学術部) 野呂理事
学位取得者について全国医科大学七八校に調査依頼し四九校より一七六名の学位取得者が判明した(うち九名が非会員)
非会員については入会のお誘いをし新規に七名の入会あり、氏名は別紙のとおり
第二回ワークショップを東京女子医科大学臨床講堂にて開催、二四名の出席あり、詳細は次号会誌に掲載
(財政) 日本心臓財団よりの五〇万円協賛の寄付金受領
日本女医学会年加入促進について年金委員会開催
(学術部) 橋川常任理事
第一回学術講演会出席予定者九名、懇親会四八名(10月21日現在)懇親会料理一人五〇〇〇円
案内用看板を作成

可決

二、会員名簿発行について
名簿印刷は、従来どおり北斗社(株)へ依頼
名簿の大きさ、表紙の色についても従来どおりと決定
三、昭和65年総会開催地について
宮城支部にて開催を承諾
四、第一回学術講演研修会について
とき 昭和63年11月19日(土)
ところ 東京女子医科大学
講演会 臨床講堂(1)弥生記念講堂
地下一階 午後3時30分
演題 「高齢化社会と漢方」
講師 北里研究所附属東洋医学総合研究所所長・大塚恭男
懇親会 佐藤記念館
午後5時
会費二〇〇〇円
五、日本女医学会の編纂について
続・日本女医史作成にあたり昭和36年以降の編纂をする
六、その他
(1)部会費支払について
各部へ二万円支出
(2)禁煙ポスター配布について
各支部ごとに支部長宛一括発送し、各会員に配布を依頼
(3)役員会議議題提出について
議題提出については、従来どおり10日締切を厳守、ただし第三土曜日開催の場合は、5日締切
(4)昭和63年11月19日の理事会開催

報告事項

一、国際女医学会より
藤井国際連絡書記
イタリアより国際女医学会第二〇回国際会議報告書を受領
第二回国際女医学会(韓国開催)演題提出について
吉永花子先生よりあり
会議参加者の旅行ツアーは、日本交通公社と阪急交通社に依頼し登録業務は、阪急交通社に依頼
第三回西太平洋地域会議(フィリピン)参加のうちに土産品を各国より持参するように依頼あり、また会議終了後パーティの余興出演に協力依頼あり
二、日本ユニセフ協会よりのクリスマスカード、年賀状等購入希望者は、事務局へ注文のこと
三、昭和63年9月15日、テレビ朝日で放映された「微子の部屋」で初の指定女医九十一歳大久保松代先生と報道された間違いに對し、書簡にてテレビ局へ通知する
以上
副会長(庶務担当) 佐藤
庶務部 白橋、三好、南雲、福永、八木

学術講演研修会

学術講演研修会前午後2時から3時まで東京女子医科大学内に開催
(5)役員出張交通費および宿泊費支給規定について
交通費/最低運賃を基準とする
宿泊費/一律一万円

常任理事会議事録

日時 昭和63年10月22日
場所 日本女医学会会議室
出席者(敬称略)
山崎、佐藤、佐野、白橋、二村、野沢、野本、橋本、藤井、丸山、三好
欠席者(敬称略)
大原、小俣、石原、久保田
庶務報告
9月24日 理事会開催
10月1日 国際人権規約完全実施促進連絡会へ佐野常任理事出席
10月16日 ブラジル女医来日につき有志にて歓迎会開催
10月17日 国際婦人年全体会へ佐野常任理事出席
その他
一、厚生省より昭和63年10月11日付定款の一部変更を認可する旨通知あり
報告事項
一、日本交通公社団体旅行日本橋支店営業第五課大里グループスタッフより海外旅行市ヶ谷支店営業第二課へ移転のお知らせあり
連絡事項
日中医学協会より通知
一、日中医学協会助成金申込募集について
応募資格 現在わが国の大学、研究所、病院等で学習中

の中国人留学生、研修生、研究員

助成金 総額五〇万円、一名につき二五万円
締切 昭和63年12月10日
二、日中医学協会訪中団募集案内について
期間
Aコース 63年12月26日
Bコース 63年12月26日
費用
Aコース 三〇三、〇〇〇円
Bコース 三三三、〇〇〇円
募集人員 各コース二〇名
締切 63年11月21日
三、日中医学交流会議開催について
日時 昭和63年10月25日(火)
午後3時30分
場所 経団連会館
演題 「中国の医学研究体制の現状」
中国衛生部副部長・顧英奇
「日本における臨床医学研究の現状」
東京大学医学部長・高久史磨
懇親会 参加費一万円
午後6時30分
会計報告
9月分別紙どおり報告
野本常任理事
(渉外部) 佐野常任理事
10月16日 ブラジルより来日のカワノ・ホリデイ女医を有志にて歓迎会開催
丸山常任理事

10月20日 広報部会開催

・会誌一六号を近日發送
・次回会誌発行の原稿締切は12月5日
・各部、学術講演会、国際女医学会(第三回西太平洋地域会議)などの寄稿を依頼
(事業部) 橋川常任理事
禁煙ポスターを各支部へ近々發送する
(財)日本心臓財団よりの五〇万円協賛の寄付金受領
日本女医学会年加入促進について年金委員会開催
(学術部) 橋川常任理事
第一回学術講演会出席予定者九名、懇親会四八名(10月21日現在)懇親会料理一人五〇〇〇円
案内用看板を作成
一、会員名簿発行について
名簿発行について収支の検討の結果、会員に無料配布が可能であると確認した。出身校の大学名凡例を検討
二、その他
(1)会加入会のお勧めについて
年金加入のお勧めの時に「日本女医学会しおり」を同封し、会員の増加をはかる
(2)コピー機購入について
来期予算案作成までにコピー機購入について機種選定などを検討
(3)役員内規について
同居三親等の不幸の場合は、一万円香典

理事会議事録

日時 昭和63年11月19日
場所 東京女子医科大学 弥生記念講堂 A会議室
出席者(敬称略)
山崎、大原、小俣、石原、久保田、佐野、白橋、二村、野沢、野本、橋本、藤井、三好、青井、明石、荒木、石川、石津、稲生、小出、平瀬、森田、八木、添田、西山
欠席者(敬称略)
佐藤、橋川、丸山、尾中、柴田、南雲、福永、山口
庶務報告
10月22日 年金委員会、常任理事会開催
10月28日 国際人権規約完全実施促進連絡会へ佐野常任理事出席
10月29日 毎日新聞の東京中央、新宿、千代田、中野、杉並地区に「社会に貢献する女性スペシャル」欄に当会紹介掲載

11月2日 日本女医学会誌一六号、会費請求、ルーペンゲンパンフレット發送

11月2日 日本女医学会誌一六号、会費請求、ルーペンゲンパンフレット發送
11月13日 京都支部総会へ山崎会長出席
その他
一、テレビ朝日(株)「微子の部屋」プロデューサー大島満洲夫氏より大久保松代先生の指定女医第一号との紹介に對し、当会よりの指摘に對して返事あり
二、能谷美津子先生より著書「朝霞の中で」の会誌紹介の札状あり
連絡事項
一、東京都生活文化局より昭和63年度地域婦人団体指導者研修会の実施について案内あり
場所 東京都消費センター多摩西支部
東京都迎賓館ホール
テーマ 女性と人権
二、国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会より世界人権宣言四〇周年、性差別をなくす女性たちの人権集会について案内あり
日時 昭和63年12月10日(土)
午後1時30分~4時30分
場所 東京四谷、主婦会館ホール
西暦二〇〇〇年に向けての民間行動計画の発表
厚生省より昭和63年10月11日付定款の一部変更を認可する旨通知

知あり。

・山崎会長より京都支部総会へ出席した際の報告あり。 承認

会計報告

・10月分別紙どおり報告。
・(財)日本心臓財団よりの五〇万円協賛寄付は、指定寄付金とする。 承認

各部報告

佐野常任理事

・9月14日〜16日 国連NGO国内婦人委員会の薦めにより国連総会分科会に出席。当日の議題は、世界の平和保存、国連の役割等。

・10月16日 ブラジルより来日のカワノ・ホリデイ女医の歓迎会を有志にて開催。

・10月28日 国際人権規約完全実施促進連絡会に出席。

・12月10日 世界人権宣言四〇周年性差別をなくす女性たちの人権集会の紹介。

久保田常任理事

次号の会誌原稿の依頼。

石原常任理事

禁煙ポスターを各支部へ発送。

橋本常任理事

第一一回学術講演研修会を本日理事会終了後開催。

藤井国際連絡書記

第三回西太平洋地域会議の参加者数が当初より減り二〜三名の出席予定。

・国際女医学会第二一回国際会議の参加登録は、来年5月ごろまでに取りまとめる。

議事

一、会員名簿発行について

名簿発行について、会員に無料配布を決定。発送は、12月上旬予定。二、その他

(1) 会員入会のお勧めについて

年金加入のお勧めの時に「日本女医学会しおり」を同封し、会員の増加をはかる。

(2) 役員内規について

役員親族の慶弔について検討の結果、従来どおりとする。

(3) 役員新年会について

1月28日、京王プラザホテルで理事会、新年会を行なう。

庶務部 白橋、三好、荒木、八木 以上

会員動静

入会会員(敬称略)

秋田支部 針生峰子

山形支部 菊地はるよ

埼玉支部 齊藤知子 中島真澄

千葉支部 百瀬由美子

大田支部 清水幸子

杉並支部 大熊良恵

世田谷支部 水田美知

豊島支部 藤川万規子

文京支部 菅原幸子 滝川玲子

港支部 小田原慶子

都下西支部 林 葉子

神奈川支部 大本赫子

愛知支部 大島和子 大橋育子

伊藤初美 佐藤秋子

早川律子 松本順子

新潟支部 高波百合子

富山支部 高原照美

大阪3支部 佐伯孝子

大阪10支部 城戸美樹子

兵庫支部 吉田和枝

徳島支部 坂東智子

高知支部 貞包典子 玉井瑛子

福岡支部 白水ノブ

熊本支部 星子尚美

沖縄支部 大城まさえ

新卒入会会員(敬称略)

埼玉支部 仁田仁恵 丸山千文

栃木支部 大和田葉子

茨城支部 松本由美

千葉支部 須藤史子

葛飾支部 藤井由加里

江東支部 阪本裕美

世田谷支部 笠井靖代 鈴木美保

古川裕子

豊島支部 中野栄子 宮城宏恵

目黒支部 野末啓子

都下東支部 兼子幸恵

神奈川支部 白須康代 宮城悦子

長谷川明子

森末まり

愛知支部 青山裕美子 竹内有子

岐阜支部 水野桂子

新潟支部 関 美好

大阪5支部 田所千加枝

西川潤子

大阪7支部 青山さつき

大阪8支部 玉井美妃子

大阪9支部 福田多恵子

大阪10支部 河崎直子 日下 緑 西村理恵子

京都支部 大戸寛美

兵庫支部 石田麻里子

沖中美詠子

広島支部 鈴木史子 三好理恵

高知支部 今井美恵

熊本支部 笹岡由香里

沖縄支部 大城かおり

物故者(敬称略)

秋田支部 栗林孝子

文京支部 馬場紀子

神奈川支部 大下久代

山梨支部 内藤かね江

長野支部 上条正子

徳島支部 大内千鶴

長崎支部 福岡マツ子

集記 編後

平成元年を迎え、皆様にはお健やかにご活躍のことと存じます。天皇陛下には、一月七日午前六時三十三分、皇居・吹上御所で崩御されました。八十七歳のご生涯であらせられました。

陛下には、昭和六十二年九月の手術で癌が発見されて以来、一時は御体調も回復され、ご公務に復帰されておられました。昨年九月に突然、大量の吐血をされ、絶対安静になられてから、幾たびかの危機を乗り越えられ、実に百十一日間におよぶ御闘病の末、国民のご快癒への切なる願いもむなくお亡くなりになりました。死因は十二指腸乳頭周囲炎と発表されました。

御在位の期間は、歴代天皇の最長で、この間、戦争から平和へ、そして現人神から人間宣言、象徴へとま

さに波乱に富んだ御生涯であらせられました。この日をもって激動の昭和は幕を閉じ、皇太子明仁親王殿下が新天皇に即位され、元号も平成と改まり、悲しみの中にも新時代が始まりました。

ここに在りし日の陛下をしのび、謹んで哀悼の意を表するとともに衷心より御冥福を御祈念申し上げます。

本号の原稿は、昨年中に皆様から頂戴した分でございます。文中で、改元後の日程に旧元号が使用されておりませんが、そのままにして、次号から新元号に改めさせて頂きます。(小書記)

平成元年1月20日 印刷
平成元年1月25日 発行
編集人 久保田 匡
発行人 日本女医会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル
社団法人 日本女医会
TEL (498) 〇五七一
TEL (815) 六六六一

制作 株式会社 金剛出版